

3分で読める 医療安全ニュース 8期/10号

事例報告書から

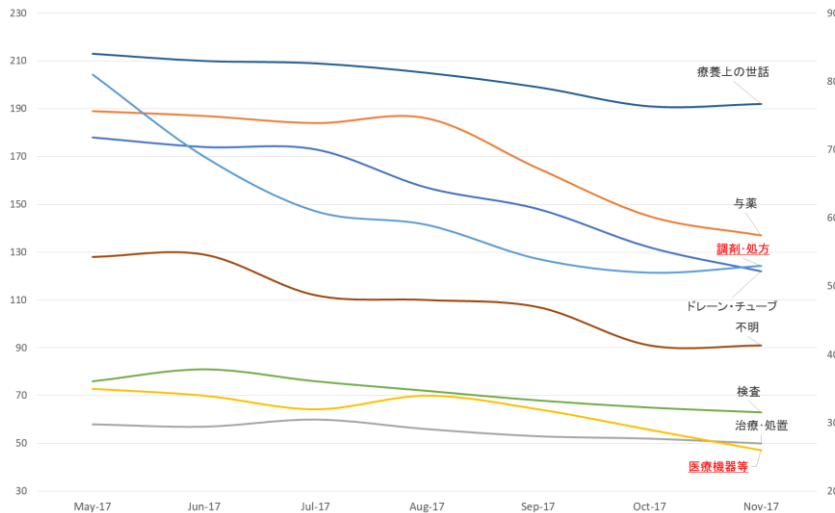


図1：事例内容、月別報告書件数年計(縦軸は件数)

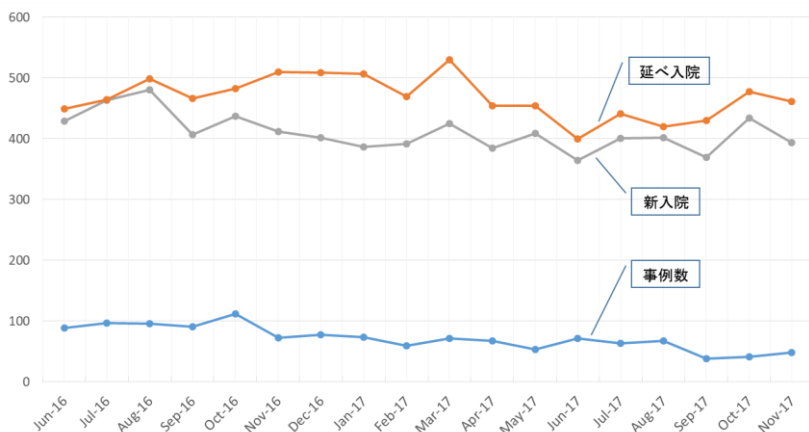


図2：入院数、事例報告書月別推移(入院は人数、事例は件数)

● 事例内容、月別報告書件数年計

1. 図1は2016年6月から2017年11月までの内容別月間報告件数の年計です。期間中18ヶ月で総計1,292件の報告がありました。
2. 赤字で示している「調剤・処方」と「医療機器」は件数が少なく、全体の変化がわかりにくくなるため、第2軸(右側)にしています。最も件数が多い「療養上の世話」の68%は転倒・転落の報告です。
3. 全体的に右下がりであり良い傾向を示していますが、これを以て「事故件数は減少している」とは言い切れません。全サンプルの平均は71.8件標準偏差が19.5でした。前半9ヶ月は平均85.4件標準偏差15、後半は平均58.1件標準偏差12.6となっています。サンプルの当初は事故報告書の入力電子化された初期のため、バイアスがかかっていた可能性は否定できないという分析が「減少している」とは言い切れない理由です。
4. 事例報告なので「事故にならないよう防止できた」という報告も混在しています。
5. 「不明」に分類されている事例が全体の14%を占めており、入力時に「概要」の項目を必ず選択していただけますようお願いいたします。

● 入院数と事例報告書月別推移

1. 図2は図1と同じ期間における月別の推移です。延べ入院数は桁が1つ上がりますので、比較しやすいよう第2軸(右側)にしています。
2. 患者数が多いと事故が増える、そのようなことが有るかどうかが多重比較(重回帰分析)してみました。
3. 今回のデータからは寄与率 R^2 (あてはまり具合)は0.318(少し相関がある)でした。t値(与える影響の大きさ)は延べ入院=0.118、新入院=2.322、p値(係数の有意確率:関係性の有無)は延べ入院=0.908、新入院=0.035、でした。つまり、統計解析からは、延べ入院患者数と事例報告数は相関関係がなく、新入院では相関関係がないとはいきれないという結果でした。
4. 自部署のデータも解析してみたい、などいつでもご相談ください。

* 12月の総報告件数

・2017年12/1～12/31の総報告件数は79件、一時保存のままで当事者に確定されていない状態の事例報告が16件、確定はされているが所属長が未承認なため医療安全管理室でコメント入力出来ない事例報告が17件あります。

・レベル3aに分類される8件の内5件は自己抜去に関する事例で合計でも13件ありました。レベル3b以上はありませんでした。

・転倒・転落はレベル3a2件、レベル2以下17件ありました。

・薬剤に分類される事例は合計で19件でした。インシデント報告(レベル2以下)ですが、禁忌薬剤の誤投与1件、過剰投与6件、無投与10件があり注意喚起が必要です。